

奥能登の蝶

吉村 久貴

1979年10月10日、ムラサキシジミ探索というのは、ウソで奥能登までドライブがてら採集に行った。

山伏山では昨年と同じく、ウラギンシジミを何頭か確認できた。時間が短かったせいもあるが、ヒメアカタテハは目撃だけ、メスグロヒョウモンは目撃すらできなかった。今年は昨年目撃だけであった。スジボソヤマキチョウを採集することができた。

また昨年と同じくモンキアゲハが何頭か飛翔目撃ができたが、本種の石川県内最北の確実な記録と思われる。

データ

スジボソヤマキチョウ	28♂	能登山伏山	吉村 久貴採集
ウラギンシジミ	1♂	〃	岡野 敬子採集

クロコムラサキ飼育記

野中 勝

昨年能登で採集したコムラサキ越冬幼虫(翔NO.3参照)の飼育結果を記す。個体別の識別をしていなかった為、分かりにくい記録となったがお許しいたください。採集した幼虫は屋外の植木鉢上にて越冬させ、飼育は容器内に水にさしたシダレヤナギの枝を入れて行った。ヤナギは2~3日毎に交換した。

次に各stage完了時の生存数とその日付(全て1979年)を記す。

- ・越冬前 3/exs.
- ・食草に付ける 23exs (3月16日; 17exs, 3月25日; 6exs.)
- ・1回目脱皮 9exs (3月29日~4月5日)
- ・2回目脱皮 8exs (4月11日~4月17日)

- 3回目脱皮 3 exs. (7月22日～7月26日)
- 蛹化 5 exs. (7月23日～7月29日)
- 羽化 ♀♂♂ (7月30日～7月31日, 1♂羽化不全)

食草に付けた時点で、既に半分以上の個体が緑色を帯びた体色に変化しており、大部分がすぐに摂食を始めた。

才2回目の脱皮完了時点で、5 exs. が終令に達しており、残りは3回目の脱皮を行なった。羽化率は $4/31 \approx 0.13$ と悪かったが、最後に死因のバスターを挙げておく。

- | | |
|----------------------------|--------|
| 1. 1回目脱皮前に餌もなく(?) 摂食を止め乾燥死 | 8 exs. |
| 2. 越冬中の乾燥死 | 8 exs. |
| 3. 寄生バエの幼虫脱出 | 5 exs. |
| 4. 異死病(ウイルス?) | 3 exs. |
| 5. 筆者がかわいさのあまり、つつぶしたもの | 2 exs. |
| 6. 蛹のまま固くなってしまったもの | 1 ex. |

ウラキンシジミの県内分布地追加

岐阜 勝

石川県のゼフィルス類の記録は、最近吉村によりまとめられた*が、その後下記の地点でウラキンシジミを解しているので報告す。

- | | | |
|--------|------------|------------|
| 小松市鞍掛山 | 1979年3月21日 | 18卵 |
| | (3♂♂1♀羽化 | 5月19日～25日) |
| 金沢市国見山 | 1979年5月6日 | 2幼 |
| | (2♂♂羽化 | 6月5日, 6日) |

食樹はいずれもマルバアオダモで、鞍掛山山頂付近はこの木の
大木が多く、比較的採卵しやすかった。国見山では高さ50cm
位の小木から幼虫が得られた。

* 吉村 久野 翔 5 (1979)



タテハチヨウ科

木のチップにフタオチヨウが止まっているんです。つなぎが届かない。辺りを捜し回り1本の長い竿を見付けた時のうれしさ。ガムテープで竿をつなぐ時のもどかしさ、さあできた。鼓動は高なる。まだ届かない、傾むいて勇然と止まっている。しめしめ、ほとんど登りきる。フタオは居るかな、はてどこかな、顔を動かすと、木がゆれていた。

フワリと目の前にリュウキュウムラサキが現われる。ワッと網を振る。悲しいかなまだ目の前をフワリ、フワリしている。それといっしょに向こうの方で5、6人のオッサン、オバサンが見ているのが見えた。2度目の網は振れなかった。フワフワはだんだんと高度を増し、並木を越えて翔んでいってしまった。残念無念。

見上げればヤエヤマイチモンジが、木の実に群がっている。ヤッター網を出す。残念!あと少しで届かない。かの楽しげな虫達をイライラしながら見上げていた彼は、いっしょかチリチリと焦げる音を耳の奥に聞いていた。

タテハチヨウには、悲しい思い出がまだまだたくさんありました。

1) タテハモドキ	4 exs	VIII 4	本郷本島	天々台
	5 exs	VIII 5	"	深河川
	4 exs	VIII 12	与那国島	犬座鼻
	1 ex	VIII 13	"	比川
	1 ex	VIII 14	石垣島	川平
	1 ex	VIII 18	西表島	千立
2) アオタテハモドキ	2♂♂	VIII 13	与那国島	比川
	2♂♂ 1 ex	VIII 14	石垣島	川平
	2♂♂ 1 ex	VIII 22	"	吉原
3) タイワンキマダラ	2 exs	VIII 20	西表島	白浜
4) シロミスジ	1 ex	VIII 12	与那国島	犬座鼻
5) ヤエヤマイチモンジ	3♀♀	VIII 16	西表島	カンピラ
	1♂	VIII 19	"	白浜
	3♂♂ 13♀♀	VIII 20	"	白浜
	1♂ 1♀	VIII 22	石垣島	菟川

6)リュウキュウミスジ	1♂ 2exs 2♂♂1♀ 1ex 1♂ 1ex 3exs 1ex 1ex 1♂ 2♂♂1♀ 1♂	VII 5 沖繩本島 源河川 VII 6 " ヌーハー VII 7 " ヌーハー VII 8 石垣島 バンナ VII 9 " バンナ VII 12 与那国島 犬産鼻 VII 13 " 比川 VII 17 西表島 祖納 VII 18 " 千立 VII 19 " 祖納 VIII 19 " 白浜
7)カリリタチハ	1♂2♀♀ 3♂♂3exs 3♂♂	VIII 6 沖繩本島 ヌーハー VIII 19 西表島 白浜 VII 20 " 白浜
8)ゴノハチヨウ	1ex 4exs	VIII 7 沖繩本島 ヌーハー VIII 22 石垣島 昔川
9)ヤエヤマムラサキ	1♂	VIII 20 西表島 白浜
10)メスアカムラサキ	1♀ 1♂	VIII 8 石垣島 バンナ VIII 9 " バンナ
11)インガケチヨウ	2♂♂ 2exs 1♀ 1♀	VII 6 沖繩本島 ヌーハー VIII 16 西表島 カンピラ VIII 18 " 千立 VIII 21 " 祖納
12)スミナガン	1♂ 1♀	VIII 6 沖繩本島 ヌーハー VIII 20 西表島 白浜
13)ツマグロヒョウモン	1♂ 2♂♂1♀2exs	VIII 6 沖繩本島 ヌーハー VIII 16 西表島 カンピラ

ウラナミアカシジミ補遺

嵯峨井 彦郎

富山県における本種について、翔 NO.6に文献類の確認をせずに一部記載したが、富山県昆虫研究会の中川秀幸、大野豊、水野透

3氏の御厚意により、富山県の昆虫(富山県昆虫研究会編・富山県発行・1979)の贈呈を受け内容を検する機会を得た。

ここに若干の訂正と新たな知見について記しておく。

筆者はとっくりばち・2627合併号に、本種の採集記録として、倶利伽羅山中、1♂4♀、1973.6.23採集をあげ、この記録は富山県昆虫同好会大野豊氏によれば、未確認情報による記録とあるが富山県新記録になると記載したが、これ以前に同じ山塊の小矢部市八講田、埴生〜大池にて磯村鋭志氏により1972年に採集されていることが判明した。テーマは次のとおりである。

小矢部市八講田	2♂♂2♀♀	1972.7.2	磯村 採
" 埴生〜大池	3♂♂1♀	1972.7.2	磯村 採
" "	1♂	1974.6.23	大野 採

なお、1976年7月に東砺波郡上平村オノエ峠および同村開津橋にて本種が得られている由なので付記しておく。

次に報No.6に記載した、富山県西砺波郡福光町・御峰は、地方道改良工事により既産地の大半のクマギが伐採され、壊滅していることが1979年9月キノコ採りの際に発見した。

しかし報No.6にもかいたが、北陸自動車道沿線に生息の可能性は十分にあるので記録をあげてみたい。会員諸兄の調査に期待したい。

【Self introduction】

金平 永二 (かねひら えいじ)

自宅 〒920 金沢市宝町3-3宮本ビル31号

TEL. 61-1539

帰省先 〒910 福井市大宮3丁目4-20

TEL. 0776-23-8238

血液型 A 昭和35年4月12日 京都生まれ

金沢大学医学部1年

今年は今までに、およそ30日ぐらい採集に専らしました。富山県、長野県、岐阜県といった遠征から印辰山までいろいろなお思い出がありますが、そのうちの4つをピックアップしてみなさんに紹介します。他の記録もありますから、みたい

人は言ってく下さい。

May 3. 1979 長野県茅野市富士見町立場沢 ☀

富士見駅前からタクシーで1100円で立場川大橋。そこから立場沢沿いに1時間程登ったところあたりからヒメギフチョウの生息地となる。背丈ほどの林の中には歩いてゆき、ちょっとひらけた陽だまりなどで待っていると、ゆるやかに飛来する個体を目撃できる。カタクリ、シヨウジヨウバカマ、スミレといった訪花の対象となる花は見おたらずツツグリの花に飛来した個体を1頭目撃したのみである。ヒメギフは確認した個体から推察すると、発生の初期で、他の人達も未交尾の♀を確認していた。これだけの快晴に恵まれながら最盛期にあたらなかったのは残念である。余談になるが、このポイントはとげのある木が非常に多く、歩きにくい。

ヒメギフチョウ 5♂♂1♀、シータテハ、コツバメ、キタテハ、クジャクチョウ。

May 5. 1979 岐阜県高山市泰山スキー場 ☀/☺

高山駅から自転車で約15分。好天に恵まれれば雪を頂いた北アルプス連峰がきれいに見える。スキー場ロッジの前にミツバツツグりが自生しており、ヤマダラセセリが生息している。スキー場周辺の雑木林はギフチョウの生息地となっているが最盛期は今年の場合4月下旬であろう。破損した舎が多かった。ツツジの花に次々と吸蜜にくるユニークな生息地である。他にヒメシロチョウが風に流されてきたが、発生地はつきとめられなかった。

ヤマダラセセリ 4♂♂1♀、ギフチョウ 9♂♂2♀、ヒメシロチョウ 1♂、モンキチョウ、スジグロシロチョウ、モンシロチョウ、ツマキチョウ、ツバメシジミ、バニシジミ、コツバメ、ミヤマチャバネセセリ、ミヤマセセリ、ルリタテハ、ヒオドシ、ラングチョウ。

July 4. 1979 金沢市医王山 ☀

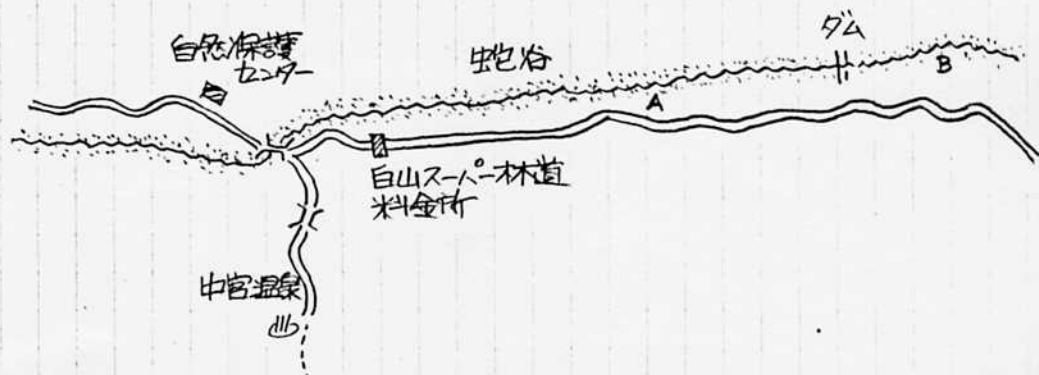
川立野上田医院前バス停 8:31, 260円。30分程で、終点見上山荘に着く。そこよりおよそ2時間でポイントにつく。このポイントとは、壺山道路分岐点から右の山道を30分程登ったところのクリの花およびその周辺のミスナラ林であり、下記ゼフィルスのほ

とんどすべてがここで得られた。全体的にみて新鮮なものは少ない。6月下旬頃が盛さそうである。帰りのバスは4時50分ごろと7時30分ごろ。

エゾミドリ 9♂♂5♀♀、ジヨウザンミドリ 5♂♂2♀♀、オオミドリ 1♂、アカシジミ 4 exs.、ウラゴマダランジミ 1♂、ウラキンシジミ 1♂、ウラクロシジミ 4♂♂1♀、ウラミスジ 2 exs.、ミスイロオナガシジミ 6 exs.、ウスイロオナガシジミ 6 exs.、アイノミドリ 3♂♂1♀ (AB型)、テングチョウ、オオミスジ♀、ヒオドシチョウ、ルリタテハ、ヤマトシジミ♀、ルリシジミ、ダイミョウセセリ、アカタテハ、ヒョウモン類、
他に奥医王と白山山の分岐点でフジミドリ 1♂を自撃。

July 5, 1979 石川県石川郡吉野谷村 蛇谷 ☀️ 風強し

午前10時金沢駅前発、白山下行。700円。白山下より中宮温泉行バスで中宮自然保護センター前下車。550円。12時過ぎに到着。



スーパー林道料金所の手前から蛇谷へ降りる。B地点まで調査して引き返したがゆっくり歩いて往復2時間ほど。A地点は蛇谷の中でも比較的緩やかな斜面で、ヨモギなどの群生する日当たりの良い草地である。ここでヒメシジミ 1♂ を確認した。やや破損した個体である。付近のヨモギをビーティングしたところもう1頭、ヒメシジミと思われる個体が飛び出し、折からの強風で飛ばされた。その後自然保護センター周辺および中宮温泉周辺を調べたが、期待したアサマシジミは確認できなかった。

ヒメシジミ 1♂、ミスジチョウ、コミスジ、イチモンジチョウ、ルリタテハ、ヒオドシ、コムラサキ♂、テングチョウ、

ニューフェイス紹介

その1. 諸道秀人氏 〒920 金沢市窪4丁目144、大西マンション-2
金沢工業大学大学院生(土木施工法研究室)

氏は幼少の頃より虫に興味をもち、特にクワガタの飼育に関し
ては、右に出る者がなく、現在と白山沢池遺跡にて採集したヒメオ
オクワガタ雄をかくっているとか。金沢に来て5年目だが、ギ
フクヨウの多いのにはびっくりしたらしく、興味が半減したと申
しておられる。ここのところカメムシによる撮る方に専念し、標本
箱が一つもないのを自慢しているゴジンである。竹谷カメムシマン
と意見があいそう。今後の奮闘に期待したい。日本蝶類学会会員
石川おしの会々員、世界の蝶園協会会々員でもおられる。

その2. 岩下泰子嬢 〒920-01 金沢市八田町西一番 A-8
石川県立金沢向陽高校3年。

彼女も小学生の頃より蝶に興味を持っておられる由。本会唯一
の紅一点。がぜん会内は騒然とし、誰かの如きは『しまった退会
しなきゃよかった』と存げいたとか、存げがなかったとか？

会員諸兄に告ぐ！やどりが誌上の女性会員アンケートによせた
彼女の名文をざらんあれ。女性故に自由に採集ができない点を
か説しておられるので、諸君今後はできるだけ協力すること。
嬢はそれに甘んずることなく、残り少ない高校生活を有終の美
で飾るよう努めさせたい。日本蝶類学会会々員でもある。

目次

奥能登の蝶	吉村夕貴	1
クロコムサキ飼育記	野中 勝	1
ウラキンシジミの県内分布地追加	野中 勝	2
1974年渡井繩採集旅行採集蝶一覽(その5)	松井正人	3
ウラナミアカシジミ補遺	嵯峨井淳郎	2
Self Introduction 金平 永二	金平 永二	5
ニューフェイス紹介	編集子	8

第8巻

1979年11月1日

発行：金沢市三口新町4-9-34 松井正人方
百万石蝶談会

編集：嵯峨井 淳郎